

令和3年度

学校評価計画表

奈良県立吉野高等学校

令和3年度 学校評価計画表

| 教育目標 | | 校訓の「至誠・進取・剛健・親和」を旨として、人権を尊重し民主的で平和な社会と新しい文化の創造に努める人間を育てる。 | | | | | 総合評価 |
|---|--|---|--------|----------------|---|------------------------------|------|
| 経営方針 | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒一人一人の夢と希望の実現に向け、確かな学力を育むと共に、達成感と成就感を伴う多くの成功体験を保証することで、豊かな社会性と人間性をもつ生徒を育てる。 ○ 実学教育を推進し、生徒自らの未来を自分で切り拓くため、将来にわたり学習する意欲と態度を培い、習得した専門技術を生かして地域社会の発展や産業の振興に貢献するとともに高い自己有用感や自己肯定感を持つ人材を育てる。 ○ 規律ある生活をとおして、規範意識の育成や基本的な生活態度の涵養を図り、心身ともに健康で忍耐力のあるたくましい生徒を育てる。 | | | | | |
| 令和2年度の成果と課題 | | 本年度重点目標 | | | 具体的目標 | | |
| <p>昨年はコロナ禍の状況にあり、計画どおり進められなかった事業もあった。しかしながら、これまで積み重ねた活動に加え、地元や県から依頼を受けた活動も活発に行い、多くのマスコミに取り上げられた。各種のコンテストでも好成績を修め、生徒の自己有用感の醸成を図ることが出来た。今年度もより活力のある学校づくりを目指したい。教員・生徒の負担を考慮しつつオーバーワークに陥らないよう、活動の精選も諮っていききたい。</p> | | 1 校内外での挨拶、マナー等、規範意識の向上に努め、高校生として社会に通用する素養を身に付ける。 | | | 学校行事への主体的な参加、部活動、ボランティア等社会参画活動の推進を通して、生徒の規範意識を高め、自律する力を養う。 | | |
| | | 2 コミュニケーション力の充実を図り、地域と学校の活性化に努め、自己有用感・自己肯定感溢れる人材を育成する。 | | | 課題研究発表会等で、自己の考えや調査結果を発信する力を養い、専門知識と技術を生かしながら、地域で活躍する有意な人材を育成する。 | | |
| | | 3 生徒に自分の進路を意識させることで、学ぶ意欲を引き出し、自ら進路を実現できる力を養う。 | | | 「進路学習プログラム」を基軸とした取組を確実に実施し、生徒が希望する進路の実現を図る。 | | |
| | | 4 地元地域の異校種間の連携を密にとり、地域に信頼される学校づくりを推進する。 | | | 三学科がもつ特徴的な教育活動を通して、地域コミュニティとしての役割を果たすと共に、「産・官・学の連携」をより一層進める。 | | |
| 評価項目 | 具体的目標 (評価小項目) | 具体的方策・評価指標 | 自己評価結果 | 成果と課題(評価結果の分析) | 改善方策等 | 学校関係者評価 (結果・分析)及び 改善方策 | |
| 業務改善(職員の働き方) | 環境整備・業務の改善を推進し、職員の健康に配慮した働きやすい職場作りを推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○勤務時間管理システムを活用し、職員の超勤の把握に努め、必要に応じて指導・助言を行う。 ●健康診断・ストレスチェック等の取組を推進し、健康障害等に関する相談体制を整備する。 ○学校が行わなければならない業務と、そうでなくても良い業務の選別に努め、週休日の確保に努める。 ●外部からの依頼案件の精選に努め、オーバーワークにならないように努める。 | | | | | |
| 式典・渉外等 | 式典を円滑に実施できるよう創意工夫を図る | <ul style="list-style-type: none"> ○式典・行事等において、いろいろな意見を取り入れ細部にわたって改善を重ねる。 ○分掌・学年・学科間の連携を密にし情報収集に努める。 | | | | | |
| | 渉外活動の更なる充実を図り、魅力ある学校づくりを推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○教務部主体のオープンスクールや合格者説明会の準備等を本校教務部・大淀・奈良南校総務部と連携を図りながら充実したものとするために協力体制の確立を図る。 | | | | | |

| 評価項目 | 具体的目標 (評価小項目) | 具体的方策・評価指標 | 自己評価結果 | | | 成果と課題(評価結果の分析) | 改善方策等 | 学校関係者評価 (結果・分析)及び 改善方策 |
|--|-------------------------------|--|--------|--|--|----------------|-------|------------------------------|
| | | | | | | | | |
| | 育友会活動の活性化を図る。 | ○役員間の連携や共通認識をより一層深め、活動を活性化させると共に、各行事への協力体制の強化を図る。また、吉野高校・大淀高校・奈良南高校、3校育友会の協力体制の充実を図る。 | | | | | | |
| 学習指導 | 新学習指導要領に沿って学習の更なる充実を図る。 | ○基礎学力の向上を重点におき、これからの時代に求められる資質を持った社会人として活躍できるよう、教育活動を展開する。 ●新型コロナウイルスの影響を鑑み、タブレットPCを活用し、充実した学習を図る。授業内アンケートを実施し、生徒の満足度90%を目指す。 | | | | | | |
| | 専門学科での特色を活かした授業展開を目指す。 | ○2・3年次における各専門科での授業において、課題研究を中心に専門性の高い内容に取り組む。 ●生徒の興味・関心に応じ、授業内容を精査することで、専門知識を生かした進路実現の達成率向上を目指す。 | | | | | | |
| 生徒指導 | 高校生として自覚をもち、規律ある行動ができる生徒を育成する | ○さらなる特別指導の減少。 ●特別指導、5件以下を目指す。規範意識を高める集会等を各学期1回以上行い、生徒の所属意識を高める。 | | | | | | |
| | | ○通学マナーのさらなる向上。 ●生徒の実情に合わせて乗車指導、ターミナル指導、地域指導等を展開する。 | | | | | | |
| | カウンセリングの充実 | ○生徒の心の相談にあたる。 ●学期始めに相談日を設置し、生徒が学習に意欲をもつように支援する。 | | | | | | |
| | 生徒会活動の充実 | ○生徒主体に各行事のさらなる活性化を図る。 ●月に1回以上、生徒会と教員が会議を持ち、各行事の取組の見直しを図る。 | | | | | | |
| ○生徒会プリントを配布する。 ●毎月に会議等で目標を定め、各HRに掲示して連絡し、活動を促す。 | | | | | | | | |

| 評価項目 | 具体的目標 (評価小項目) | 具体的方策・評価指標 | 自己評価結果 | | | 成果と課題(評価結果の分析) | | 改善方策等 | 学校関係者評価 (結果・分析)及び 改善方策 |
|-------------|--|---|--------|--|--|----------------|--|-------|------------------------------|
| 進路指導・キャリア教育 | 生徒に自分の進路を意識させ、自ら進路を実現できる力を養う。 | ○4月に進路説明会を実施し、就職に向けて、3学年の意識の向上を図る。 ●就職を含め、分野別の説明会を実施する。 | | | | | | | |
| | | ○「進路の手引き」を発行し、進路指導の進め方を周知する。 ●3学年の就職セミナーなども活用する。 | | | | | | | |
| | | ○面接指導など進路に関する行事を外部講師を迎え、実施する。 ●夏期休業中にキャリアサポートセンターから講師を受け入れる。 | | | | | | | |
| | 社会人として必要なマナー、常識を身に付けさせる。 | ○3学年の「就職セミナー」や面接指導を通して、マナー、挨拶、服装、心構え等の向上を図る。 ●縁故就職を考えている者にも、指導を徹底する。 | | | | | | | |
| | 進路先の学校、事業所との連携を密にとり、社会で求められる人材と生徒の個性の把握に努め、信頼され、期待される学校づくりを推進する。 | ○昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響で、来客が少なくなることが予想されるので、電話等のアプローチを重点的に考える。 ●その際、各事業所の意見や要望を十分に吸収したうえで、求められる人物像の把握と、本校の教育内容の広報に努める。 | | | | | | | |
| 人権教育 | 生徒の豊かな人間性の育成のため、人権教育HRの内容を充実させる。 | ○生徒たちが自ら主体的に考えることができるような内容を心がける。 ●ワークショップを含め、生徒参加型の人権HRを年2回実施する。 | | | | | | | |
| | | ○人権HRの内容を精選し事前打ち合わせおよび事後研修を充実させる。 ●人権教育学習資料集「なかまとともに」を活用するとともに、人権HRの進め方を見直し、指導案を改善する。 ●新型コロナウイルス感染症に対する誹謗中傷を防ぐため感染症に対する正しい理解を深めるためのHRを展開する。 | | | | | | | |

| 評価項目 | 具体的目標 (評価小項目) | 具体的方策・評価指標 | 自己評価結果 | | | 成果と課題(評価結果の分析) | | 改善方策等 | 学校関係者評価 (結果・分析)及び 改善方策 |
|------|---|--|--------|--|--|----------------|--|-------|------------------------------|
| | <p>生徒の実態把握に努め、すべての生徒が生き生きと意欲を持って学校生活を送れるよう配慮・支援をする。</p> | <p>○生徒たちの多様性を踏まえ、個々の生徒の特性に即した支援・指導を行う。 ●個別の指導計画を作成し、保護者・関係機関等と情報を共有して、より適確な支援が行えるよう連絡・連携を密にする。 ●生徒たちの学校生活を経済的な側面から支えられるよう、わかりやすい奨学金の案内を心がけ、確実に保護者に伝わるよう連絡の方法を工夫する。</p> | | | | | | | |
| | <p>教員の資質と能力の向上を目指し、職員研修を計画的に進めるとともに、保護者との連携を深める。</p> | <p>○生徒の実態に即した職員研修を企画するとともに、諸団体実施の講演会等に積極的に参加する。 ●職員全体研修を年2回実施し、保護者とともに参加できる研修会等へ年1回は参加する。 ●教員が自分自身と人権教育との関わりを振り返り、生徒に語る機会を大切にする。</p> | | | | | | | |
| 文化図書 | <p>文化祭の開催に向けて、コロナ禍の新しい生活様式に沿った実施方法を模索し、文化祭の充実と活性化を図る。</p> | <p>○文化祭実行委員会が中心となり、生徒たちが主体的に運営に携われるような文化祭にする。 ●文化祭のアンケートを行い、満足度80%以上を目指す。</p> <p>○学習の成果や取組の発表の場となるようにする。また、各科の取組等が、奈良南高校総合学科1年生の進路選択の参考となるようにする。 ●課題研究の発表の場ではなく、各科の取組や特色の発表とする。</p> <p>○近隣地域への公開を継続し、日頃の取組を公開することで、開かれた学校作りのさらなる充実に努める。 ●地元地域との連携および本校への理解発展のためにも、公開を実施したいところであるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を考慮しながら進める。</p> | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

| 評価項目 | 具体的目標 (評価小項目) | 具体的方策・評価指標 | 自己評価結果 | | | 成果と課題(評価結果の分析) | | 改善方策等 | 学校関係者評価 (結果・分析)及び 改善方策 |
|------|---|---|--------|--|--|----------------|--|-------|------------------------------|
| | 図書室の有効利用促進をはかる。 | ○校舎の改修を視野に入れながら、生徒たちが閲覧しやすいよう、図書室の環境整備を行う。 ●生徒たちの要望があれば、昼休み等の時間を使って、定期的の開館する。また夏期休業中の読書感想文の課題に合わせて、第1学期末には開館する。 ●蔵書点検を行う。 | | | | | | | |
| | 読書の楽しさや素晴らしさを認識させ、本を読む習慣を身につけさせる。 | ○生徒が読書に親しみ、楽しさを体感できる取組を推進し、生徒の読書意欲の向上を目指す。 ●全校一斉の読書会を2回実施する。 | | | | | | | |
| 保健体育 | 体育の授業や体育的行事を通して体力の向上と、コミュニケーション能力の育成を目指す。 | ○体力テスト、健康診断により生徒の実態を把握し、体力の向上と健康の保持増進をはかる。 ●体育の授業をととし、体づくり運動の実践や、各種の運動に親しみ、積極的に体力の向上や健康の保持増進に努めさせる。 本校の体力テストの平均値を前年度比で県及び全国の平均値を目標にする。 | | | | | | | |
| | | ○集団行動の重要性を理解させ、規律ある行動を身につけさせる。 ●集団における健康・安全について行動ができるとともに、コミュニケーション能力を身につけさせる。 | | | | | | | |
| | 生徒に健康管理を行う力を身につけさせるとともに日常生活で役に立つ知識を身につけさせる。 | ○健康、安全に関する知識、理解を深める。 ●保健学習、保健指導をとおして健康、安全に関する知識、理解を深める。 ○食育の推進や健康管理をはかるために「保健だより」を発行する。特に、食事の推進については、HRや家庭科、保健の授業をとおして、食に興味・関心を持たせ、意識を高める。 ●生徒の朝食摂取率90%を目指す。 | | | | | | | |

| 評価項目 | 具体的目標 (評価小項目) | 具体的方策・評価指標 | 自己評価結果 | | | 成果と課題(評価結果の分析) | 改善方策等 | 学校関係者評価 (結果・分析)及び 改善方策 |
|-------|------------------------|---|--------|--|--|----------------|-------|------------------------------|
| | | | | | | | | |
| 環境整備 | 学校内外を美しく保つ。 | ○清掃美化活動を習慣化させる。 ●毎日の清掃活動をきちんと行い、身の回りの環境を整えさせる。 ○通学路清掃を通して地域社会に貢献する。 ●生徒による通学路清掃を実施する。 | | | | | | |
| | 施設・設備等の充実を図る。 | ○各教室等の備品や清掃用具などを管理する。 ●各学期に1回、施設・設備の安全・点検の実施と、清掃用具等の点検、補充を行う。 暖房器具の維持管理や適切な給油計画を立てる。 | | | | | | |
| | 安全管理に努める。 | ○生徒の安全確保に努める。 ●防災・避難訓練を年間2回実施する。 ○緊急時に救命処置や応急手当が行える知識と技術を習得させる。 ●普通救命講習を2年生全員受講させる。 | | | | | | |
| 建築工学科 | 生徒の希望する進路実現に向けた取組を進める。 | ○早期から資格取得・検定試験に対する意識を芽生えさせ、受検者を増やし、取得に向けた対策講座等の充実を図る。 ●各種資格取得・検定合格率60%以上を目指し、取得生徒数を増加させる。 | | | | | | |
| | | ○生徒一人一人の進路実現に対する意識を高める。 ●インターンシップや体験授業等を通じて建築関連の進路先に興味をもたせる取組の充実を図る。 | | | | | | |
| | 学科の特色を生かした地域貢献を進める。 | ○さまざまな機会を通して地域社会や保護者を含めた小・中学生等に建築工学科ならではの支援活動を行う。 ●地元中学生を対象に「吉中友灯工房」、地域住民対象に「ものづくり教室」を開催する。 ○「地域と共にある学校づくり」を推進する。 ●地域イベントへの参加や営繕に関する建築の専門知識・技術を生かし地域に還元する。 | | | | | | |

| 評価項目 | 具体的目標 (評価小項目) | 具体的方策・評価指標 | 自己評価結果 | | | 成果と課題(評価結果の分析) | 改善方策等 | 学校関係者評価 (結果・分析)及び 改善方策 |
|-------|--------------------------------------|---|--------|--|--|----------------|-------|------------------------------|
| | | | | | | | | |
| 土木工学科 | 専門分野の知識と技術を習得させる。 | ○基礎・基本を重視した内容を精選し、生徒の実態に即した授業内容の工夫を行う。また、積極的に資格取得に取組ませる。 ●小型車両系建設機械10名以上、小型フォークリフト10名以上の合格者を目指す。 | | | | | | |
| | 専門分野に興味関心を持たせ、土木技術者としてのやりがいや魅力を持たせる。 | ○専門的な技術を体験させ、各種大会に積極的に参加させる。 ●社会人講師による講座を5時間以上設け、実技指導を受けさせる。「測量技術の習得」や「橋梁模型コンテスト」に参加し、上位入賞を目指す。 | | | | | | |
| | 安全教育の徹底を図る。 | ○実習や実験などで事故0件、器具の破損0件を目指す。 ●危険を伴う作業(パワーショベル・木工作等)では、複数の教員で安全指導にあたる。また、器具・工具の正しい使い方を教え大切に使用させる。 | | | | | | |
| 森林科学科 | 農業クラブ活動の充実を図る。 | ○コロナ感染拡大防止を留意しながら、可能な活動に取り組ませる。 ●プロジェクト・意見発表会等各種競技会に向け、取組を強化し、活動の充実と発展を図る。 ○交通安全啓発グッズやハボタン配布等のボランティア活動に積極的に参加し、社会性を培う。 ●各学期に2回以上の活動を実施し、地域に貢献する。 | | | | | | |
| | 学科の特色を生かした地域貢献を進める。 | ○コロナ感染拡大防止を図り、可能な活動に取り組ませる。 ●吉野の魅力を本校から発信し、地域の発展に貢献する。 ○吉野林業活性化を目指し、作業道整備に向けた学習活動を充実させる。 ●演習林や学校近隣の森林整備を行う。 | | | | | | |
| 2学年 | 基本的な生活習慣を身につけさせ、自立した高校生活を確立させる。 | ○学年・クラス目標をもとに、自己の目標を持たせ、けじめある生活態度を身につけさせる。 ●出席率90%以上、遅刻回数を前年度比50%以下に減少させる。 各学期に1回以上の学年集会を実施し点検を行う。 | | | | | | |

| 評価項目 | 具体的目標 (評価小項目) | 具体的方策・評価指標 | 自己評価結果 | | | 成果と課題(評価結果の分析) | | 改善方策等 | 学校関係者評価 (結果・分析)及び 改善方策 |
|------|--|---|--------|--|--|----------------|--|-------|------------------------------|
| | | | | | | | | | |
| | | ○吉野高校生として節度ある言動を定着させ、責任を持たせる。 ●生徒指導上の問題行動を昨年度比90%以下を目指す。 | | | | | | | |
| | 進路実現に向けた取組を理解させ、学力の向上を目指す。 | ○日々の授業を大切にすることが進路の実現に結びつくことを理解させ、将来に向けて意欲的に取組む姿勢を育む。 ●早期に進路目標を持たせ、インターンシップや企業見学の参加を積極的に促す。 各種講座への積極的な参加や、資格取得を促す。 | | | | | | | |
| | 修学旅行や学校行事等積極的に取組む意欲と態度を育成する。 | ○学校行事への積極的な参加を促し、集団での自分の役割を自覚した行動ができる生徒を育てる。 ●行事に積極的に参加し、参加率100%を目指す。 修学旅行満足度100%を目指す。 | | | | | | | |
| 3学年 | 生徒の進路意識を高め、社会に貢献できる生徒を育成する。 | ○一般常識、面接、筆記、小論文等の指導を充実させ、進路実現を図る。 ●進路決定率100%を目指す。 | | | | | | | |
| | | ○挨拶やマナー等、規範意識を向上させるとともに、欠席や遅刻のない習慣を定着させる。 ●出席率95%以上を目指す。 | | | | | | | |
| | 最終学年として学校行事や特別活動等に、主体的に取り組む姿勢と態度を育成する。 | ○学校行事の企画・運営に積極的に参加させ、主体的に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ●吉野高校での生活満足度100%を目指す。 | | | | | | | |